

いました。古戦場小公園にもおいで下さり誠に有り難く、今回の見学会に深く感謝するものであります。

史跡探訪の記

佐藤 正映

今年の史跡探訪会は、天台宗の末席に名を列ねる者として、大変参考になる一日であった。国東半島一帯は殆ど訪ねているが、安心院・院内方面にも天台の遺跡や修行跡が多く、昔日の繁栄が目に見えぬ。特に「仙の巖」の威容には驚く。外観だけでなく、遺跡の発掘により、当時の様子が判明できたらと思う。

天台系ではないが、「地獄・極楽」も往時の信仰の深さに感心する。

私が住職を勤めている行橋市の隣町勝山にある「胸の観音寺」では、此処を大型としたような山を信仰霊場として、北九州一帯よりの信者が登ってくる。約壹千年の昔より絶えない信者を大事に導くことの責任を痛感している。

現在の世相を考えると、月に一度でいい、家族・友人と観音参りなどで憂さや悩みを晴らす事の素晴らしさを体感頂

きたい。

楢本の石仏群の威容さを見るにつけ、白杵のように風雨を凌ぐ対策を講じ、観光宣伝に力を入れたらと宇佐市に要望したい。

め歴史博物館には何度も行っているが、「み仏の美とかたち」に展示された仏像には圧倒された。翌日太宰府の国立博物館に出かけたが、大分の展示物の素晴らしさは、それに決して劣らないと思う。

私は終生の友として木彫りに励んでいるが、参考になる作品を拝見できて有意義な一日であった。役員の皆さんに感謝申し上げます。

桂昌寺跡 地獄極楽洞窟を見て

会員 清原 明

桂昌寺けいしょうじとは室町中期に開基されたが、江戸中期頃には無住廃寺となったと云う。江戸後期頃、一老僧が復興を悲願して、四国八十八カ所の霊場を巡礼している時、地蔵菩薩じざうぼさつの霊夢を受け、又江戸の傑僧「巍純きじん（午道法印ごどうほういん）」と巡りあった。

老僧はこの巍純に事情を話し霊夢のことを告げ懇願して、